

平成 26 年度事業報告

(平成 25 年 9 月 1 日～平成 26 年 8 月 31 日)

平成 26 年度事業は、当初の事業計画ならびに予算案に基づいて次のように行われた。

1. 会員数

平成 26 年 8 月 31 日現在の会員数は次のとおりである。[専門分野別会員数集計表 () は前年度数]

会員数 (H26.8.31 現在) () は H25.8.31 の数

会員種別	医・歯		理		農・工		薬		他		計	
名誉会員－国内	34	(34)	10	(10)	8	(8)	14	(15)	1	(1)	67	(68)
名誉会員－国外	-	-	-	-	-	-	-	-	80	(80)	80	(80)
永年会員	5	(4)	4	(4)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	9	(8)
評議員・参与	323	(343)	193	(209)	128	(139)	138	(150)	7	(8)	789	(849)
正会員	1,923	(1,962)	1,753	(1,845)	1,133	(1,219)	1,302	(1,341)	241	(265)	6,352	(6,632)
学生会員	168	(191)	288	(329)	287	(303)	207	(237)	4	(3)	954	(1,063)
小計	2,453	(2,534)	2,248	(2,397)	1,556	(1,669)	1,661	(1,743)	333	(357)	8,251	(8,700)
異動数	-81		-149		-113		-82		-24		(前年比)	-449)
賛助会員									94口	(92)	65社	(67)
団体会員											175団体	(180)
総計											8,491	(8,947)
											(前年比)	-456)

H26.8.31 支部別会員数 () は H25.8.31 の数

支部名	会員数(名)		%
北海道	261	(286)	3.2%
東北	518	(521)	6.3%
関東	3,197	(3,386)	39.1%
北陸	224	(216)	2.8%
中部	758	(815)	9.3%
近畿	1,760	(1,837)	21.5%
中国・四国	730	(780)	8.9%
九州	723	(779)	8.9%
計	*8,171	(8,620)	100.0%
*除・外国人名誉会員			

註：除・外国人名誉会員

2. 会議

会務運営のために行われた主な会議の開催状況は

以下のとおりである。

定例理事会	10月,12月,4月,8月	5回
定例常務理事会	11月,2月,4月,6月,8月	5回
JB編集委会	9月,4月	2回
生化学誌企画委員会	12月,6月	2回
各種授賞等選考委員会	6月	1回

3. 研究発表会、講演会等

(1) 第 86 回大会

日時：平成 25 年 9 月 11 日～13 日

場所：パシフィコ横浜

会頭：宮園 浩平

特別講演 3 題, ポスター1,423 題, シンポジウム

73 題, 口頭 591 題, バイオインダストリーセミナー

6 題, フォーラム 6 題, Late-Breaking Abstracts

188 題

参加登録者：4,005 名

(2) 第 51 回総会

日時：平成 25 年 11 月 14 日

会場：東京ガーデンパレス

(3) 各支部の集会は次のとおりである。

	平成 26 年度	平成 25 年度
北海道支部	1	1
東北支部	1	1
関東支部	1	1
中部支部	1	1
北陸支部	1	1
近畿支部	1	1
中国・四国支部	1	1
九州支部	1	1

各支部における学術活動は活発であり、多くの支部でシンポジウムを開催した。

4. 研究業績の表彰, 奨励

平成 26 年度奨励賞, JB 論文賞, 柿内三郎記念奨励研究賞および柿内三郎記念賞の受賞者は以下のとおりである。

日本生化学会奨励賞

生沼 泉, 佐伯 泰, 鈴木 淳, 鈴木 洋, 西増弘志

JB 論文賞 (第 23 回)

Tran Thanh Tung 他 7 名, Zahra Zende-boodi 他 3 名, 木村 元 他 6 名, 大栗誉敏 他 4 名, 野村祐介 他 10 名, 竹川宜宏 他 6 名

柿内三郎記念奨励研究賞 (第 11 回)

石谷 太, 多胡めぐみ

柿内三郎記念賞 (第 9 回)

吉森 保

5. 会誌等

(1) 会誌発行状況は以下のとおりである。

○生化学

	総頁	論文数	総説	MR	TN	その他
第 85 卷 H25.1~12	1,126	163	63	54	2	44
第 86 卷 H26.1~4 ※隔月発行	546	88	31	39	2	16

*支部編集による特集号は好評を博している。

**編集企画協力委員には非会員の参画も要請し,幅広い企画の立案に努めている。

○The Journal of Biochemistry

	Pages	No. Paper	Reg. P	Comm- mun.	Rev/ Minirev.	Ref. & Others
Vol. 153, 154 2013	1,206	126	91	3	24	8
Vol. 155, 156 (Jan. - Aug) 2014	537	52	41	0	10	1

*2013 年の Impact Factor は 3.073 となり対前年比 0.354 ポイント上昇した。

(2) 各月の配布状況は以下のとおり。

	生化学	JB
個人会員	451	129
団体会員	175	104
賛助会員	65	65
商社・書店	162	280
交換・寄贈・保管等	97	302
計	950	880

6. 学術集会の企画

平成 26 年度バイオフィロンティアシンポジウム 1 件を決定した。

7. 関連諸会議・学協会との連携および協力

(1) 平成 25 年 12 月に Singapore で開催された FAOBMB に代表を派遣した。

(2) 男女共同参画学協会連絡会, 生物科学学会連合の会員として活動した。

(3) 日本学術会議, 日本学術振興会, 日本医師会, 日本医学会などの調査に協力した。

8. 学術活動の援助

次の 9 件の学術集会を援助し,それぞれ盛会であった。

1.北海道支部「生命現象の分子レベルでの解明」(11 月)

2.東北支部「細胞内輸送機構とその破綻がもたらす病態」(5 月)

3.関東支部「支部例会 - タンパク質の機能 -」(6 月)

4.北陸支部「幹細胞研究の今」(5 月)

5.中部支部「挑戦と情熱が切り開く生化学研究の魅力」(5 月)

6.近畿支部「生化学の実用化と社会への還元」(5 月)

7.中国・四国支部「蛍光イメージングの新機軸」(6 月)

8.九州支部「内因性リガンドに対する自然免疫の応答制御と宿主の恒常性維持機構」(5 月)

9.生化学若い研究者の会「第 54 回生命科学夏の学校」(8 月)

第 12 回 JBS バイオフィロンティアシンポジウム:

第 4 回ミトコンドリア・ダイナミクス国際会議

(平成 25 年 10 月 28 日~11 月 1 日)

9. 委員会の活動

(1) 情報専門委員会

ウェブページの改修を行い、会長だより、JB 編集長よりを開始、掲示板を設置することで会員と学会との双方からの意見交換が可能となった。

(2) 男女共同参画推進委員会

第 86 回大会時にランチョンセミナー「女性研究者－育てる側と育てられる側」を開催した。

(3) 研究倫理委員会

「生化学」誌に掲載された論文の著作権と利用に関するガイドラインを作成した。

(4) 各種授賞等選考委員会

本会奨励賞および JB 論文賞、公益財団法人倶進会による「柿内三郎記念賞」「同奨励研究賞」の選考を行った。また、他財団への賞・助成に対し、候補者募集の周知をはかり、選考、学会推薦をおこなった。